

令和5年度 町政執行方針概要



町長 横山 茂

6月21日に開会された第2回定例会で、横山町長が令和5年度の執行方針について述べました。

今回の広報では、その主要な部分を掲載いたします。全文をご覧になりたい方は、役場総務財政課までお問い合わせください。

町長に就任し、9か月後に新型コロナウイルス感染症が道内で確認され、1期目の大半は、町民皆様の「生命と健康」及び「暮らし」を守ることを最優先にまちづくりに取り組み、この度の再選と時を同じくして感染法上の分類が変わり、改めて町民皆様からの期待と職責の重さに身の引き締まる思いであり、初心を忘れることなく、町民皆様と共に「笑顔があふれる小さな町の大きな挑戦！」をスローガンに、明日の明るい未来を創り上げるため、「オールぬまたで輝かそう！ぬまたの未来！」を合言葉として、町政執行のかじ取り役を全力で担わせていただきますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○沼田町第6次総合計画 後期計画について

第6次総合計画の前期4年間が経過し、後期計画の策定にあたりましてはこれまでの取り組みを検証し、社会情勢の変化や地域独自の課題解決のための方向性を整理し、第2期総合戦略などとの整合性を図った上で、8つの重点施策を最優先施策とし、町の将来像の実現に向け取り組みを加速化してまいります。

- 1 農業を守る！
- 2 産業を創る！
- 3 子育て環境の充実！
- 4 学力アップと生きる力を向上！
- 5 健康寿命をアップ！
- 6 公共交通を繋ぐ！
- 7 地球環境に貢献！
- 8 コンパクト&健全財政の実現！

○農業振興について

スマート農業の活用による生産性の向上とともに、輸出や付加価値向上による新たな販路開拓など現在の情勢を踏まえた上で将来の姿について、改めて行政・JAなど関係機関職員による検討を行うこととし、並行して昨年度から取り進む稲作経営超低コスト化体質強化事業により、本町に適した新たな技術導入などについて検討及び実践に向けた情報共有・気運醸成を農業者皆様とともに進めてまいります。

本町における農地流動化は、農業委員会など関係機関団体のご尽力により現在は順調に推移しておりますが、今後の農業を取り巻く情勢や後継者問題などを考慮すると、更に厳しさを増すことが懸念されることから、ぬまたアグリファームによる第三者継承も視野に入れた新規就農者確保対策などについて取り進めるとともに、農地を取得しようとする農業者の経済的負担の軽減を図り、今後における農地流動の円滑化と本町農業

の競争力強化を確立します。

また、本町農業の担い手確保対策として、新たに農業に従事される方の経済的負担の軽減のため、農業従事者に必要となる免許取得経費の一部助成について、中山間地域等直接支払制度推進協議会による制度として取り組み頂くこととしております。

○スマート農業の推進について

労働力不足やコスト削減といった地域農業の課題解決にはスマート農業の推進が急務であり、本町では国の「スマート農業産地形成実証事業」に取り組む道内大学、スマート農業機器メーカーや生産者などによる実証グループに本年度も継続して参画し、実装に向けての課題検証を進めるとともに、その結果を「沼田町スマート農業研究会」と連携し取り組んでまいります。

○商工業の振興について

商工業の振興、発展及び商店街の活性化を図るため「沼田町商工業活性化チャレンジ事業」を創設し、商工会自らが商店街の活性化のため誘客の実践にチャレンジする事業などの支援を行い、また、町内における店舗維持と魅力ある商業環境を持続させるため、後継者や第三者に対して事業を継続・承継していくための支援や、起業及び商品開発等への支援を行う「事業継続・魅力向上ぬまた活性化支援事業」を創設し、商工業の持続的発展と活性化を図ってまいります。

○新たな魅力創出 チャレンジについて

JR留萌本線の留萌から石狩沼田間が3月末で廃止となったことに伴い、石狩沼田駅が終着駅として一定の廃線需要があることから、「石狩沼田駅前周辺活性化事業」としてチャレンジ屋台村（駅前横丁）や記念グッズ等の商品開発、鉄道ミュージアム開設に向けた資

料収集等を行い、駅周辺及び商店街が活気あふれる魅力的なエリアとなるよう着手してまいります。

○観光の振興について

本町の魅力ある豊富な地域資源を有効活用しながら、観光協会においてSNSなどを活用した観光情報の発信強化と、対面での催事などへ積極的に参加することとし、また、「株式会社まちづくりぬまた」が経営体質強化を目指すため、地域商社化（着地型観光（旅行業）構築に向けた取り組みを進めることから支援することとしております。



令和5年度 町政執行方針概要

○新たな企業誘致戦略について

昨年度策定した、企業誘致戦略を基本にオンラインを活用した企業誘致に取り組み、フォームマーケティングで有意回答のあった企業に対し「オンライン相談会」や「まちの見学ツアー」を開催し、町の強みや地域力を実感していただく、「新たな企業誘致戦略に基づくサテライトオフィス等誘致推進事業」実施していきます。

○そらち自然学校について

4月からグランドオープンし、地域おこし協力隊3名が運営法人

に所属してアクティビティやイベント、森づくり等に取り組んでいるところであります。

本町の地域資源を活かした稼働力や、企業やノマドワーカーとの交流によるイノベーション、沼田式森づくりに対して共感を促す賛助会員の募集や教育旅行のPR等に取り組みこととしており、町としても全面的にバックアップしながら「ほろしん温泉ほたる館」「化石体験館」と連携した相互の利用促進に加えて、小平・幌加内・沼田3町広域振興協議会において、スケールメリットや豊かな自然と豊富な地域資源を活かしたアクティビティを最大限に引き出し、北海道の「アウトドアの聖地」として国内外に発信できるよう検討してまいります。

○母子の健康づくりについて

新たな子育て支援事業として、24時間365日スマートフォン等で医師に相談できる「伴走型支援子育て相談オンライン」を、4月から開始しておりますが、更に、

母子健康手帳の電子化と母子保健・子育て支援のDX化を図るため「母子手帳アプリ」を導入し、タイムリーな子育て情報の受信や、予防接種AIスケジューラーなど、ICTを活用することにより、子育て世代のニーズに沿ったサポートに努めてまいります。

○子育て家庭の負担軽減について

子どもの心身の健やかな成長を社会全体で支援する取組みの一環として、小中学校の給食費を無償化し、子育て家庭の負担軽減を図ってまいります。

○木育事業について

本町の将来を担うお子さんの誕生を祝い、乳幼児期から木製品に触れることにより本町の豊かな森や自然に対して親しみや関心、愛着を持っていただくとともに、木製品の利用は健全な森林環境の保全によるゼロカーボンの推進にも繋がることから、森林環境譲与税を財源とした基金を活用し木製玩具と食器を贈る木育事業に取り組

んでいきます。

○子育て環境の充実に ついて

地域での子育ての助け合いを行う「沼田町ファミリーサポートセンター事業」につきましては、安心して子育てができる環境の向上のため事業の充実に取り組み、「子育て交流広場（えがお）」は、子育てに関する相談や子どもの遊び場、保護者同士の交流の場として、また、地域子育て支援センター事業の実施やファミリーサポートセンターの拠点施設として効果的な活用を図り、利用しやすい施設運営を目指してまいります。

沼田認定こども園につきましては、保護者の方々が安心して子どもを預けることができる「質の高い保育・幼児教育」の向上を実現するため、適切な人員配置による保育士の増員における支援・協力を行うとともに、沼田町学童保育所につきましても、地域の方々と連携した中で児童の健全育成に努めてまいります。

○移住・定住の推進について

本町の人口動態は社会増減による人口減少はくい止められているものの、加速する少子高齢化に伴う自然減により人口減少は緩やかに続いております。

移住定住の推進を目的とした「沼田町住んで快適住まいる応援条例」は令和5年3月31日をもって失効いたしました。これまでの制度を拡充した条例の提案及び、高校生における経済的負担を支援する「がんばる高校生応援手当」、町内在住の方が孫の移住を促す「孫ターン奨励金事業」育ち盛りの小中高生がいる世帯に雪中米1俵を提供する「ぬまたライフサポート事業」など移住・定住を促すための事業を実施します。

○地域公共交通検討・利用促進事業

JR留萌本線全線廃止後の持続可能な公共交通とまちづくりを構築するため、ワークショップや各種団体等から意見収集を行っている

ところです。

バス転換（沼田・深川線）については、通学・通勤・通院などの生活交通としての利便性を維持できるよう沿線自治体、JR北海道、バス事業者、北海道と協議を進めており、バス事業者の経営状況や運転手・整備士の不足、車両の老朽化等、様々な課題を抱えている状況にあります。朝・夕の通学特急便の確保や「日中のデマンド運行と車両の小型化」等、あらゆる持続可能な運行スタイルを協議・要請していくとともに、廃線後の利用支援策として「通学費支援制度の創設」や「バス・JR通し定期と特急利用」、「新規バス路線（旭川直行便）」等、国・北海道に対しても強く要請してまいります。

○ほたる館の運営

今年4月8日から、新たな指定管理者である「株式会社第一賣亭留」の営業がスタートしており、新たな観光の方向性を見極めつつ、「そらち自然学校」、「化石体

験館」等が行う事業など各種事業との連携を深化させ、集客に向けた努力を指定管理者と共に継続してまいりますので、町民の皆様にもなお一層のご愛顧をお願い申し上げます。

結びに

世界的な潮流に加え、人口減少が及ぼす地域社会・地域経済の衰退が懸念される中で、本町独自の地域課題も複層化しており、このことは本町のみならず多くの地方自治体が抱えているものであり、正に自治体間の知恵比べの時代と捉えつつも「競争」と「共創」を意識し「新たな視点」「新たな創造」をもって、オールぬまたで「共創協働のまちづくり」に努めてまいります。

また、明年は「沼田喜三郎翁」が18戸の開拓者を率いて、大きな希望と明日への夢を託したこの地も130年の記念すべき年を迎えます。

改めて、先人のご労苦に感謝と敬意の念を捧げ、今日まで築かれ

た礎のもと100年後を見据えながらも、しっかりと足元を見つめ、着実にしかも大胆に様々な知恵を結集して挑戦してまいります。ご協力をお願いします。

町民の皆様のご支援とご協力を重ねて心からお願ひ申し上げます。

